

文化施設の現状について

- 人口減少や少子高齢化を背景にしつつ、公共施設を取り巻く環境は大きく変化してきている。また、本市の財政状況では、生活保護関連経費や公債費の増加により、令和6年以降、歳出拡大が見込まれる。あわせて、特に舞台設備をもつマドカホール、浪切ホールは、それぞれ開館して36年、18年を迎えるとともに、多額の整備費用の捻出が課題とされている。
- 一方、他の分野の公共施設においては、それぞれに施設の再編成の議論が始まっている。
- こうした点を踏まえ、先進的な自治体の取組等を参考とし、本審議会においても、文化施設の利活用の促進を検討していくことが重要。

1. 岸和田市立自泉会館

- *現在、指定管理者制度により岸和田文化事業協会が管理運営を行っている。令和3年3月31日まで。
- *今年度、令和3年度から令和7年度までの指定管理者募集があり、岸和田文化事業協会が指定管理者として決定。
- *本市の貴重な文化的建物である自泉会館の修繕箇所の把握、対応について検討していく。

2. 岸和田市立浪切ホール

- *南海浪切ホール：令和元年10月からネーミングライツを導入。
- *現在、指定管理者制度により、南海・TVKグループが管理運営を行っている。令和4年3月31日まで。次年度、募集の予定。

3. マドカホール（岸和田市立文化会館）

- *現在、市が直営で管理運営を行っている。
- *ネーミングライツの募集を行っている。